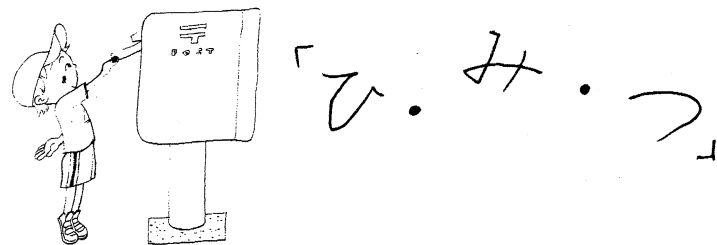


7月の 園便り



30年 新潟青陵幼稚園 園長 加藤由美子

「人に神経を使う人と神経を使わない人とがいますね、それは育つ過程で、自分が傷つくことに神経を遣ってもらったかどうかということがまず最も基本的に重要な問題です。子どもが傷つくことに周りの大人が鈍感だったら、当然その子は人を傷つけることに鈍感になります。抑制のきいた人に育てられた子と、その時の感情のおもむくままに「ああだ、こうだ」と言われながら育てられた子とでは、自分の感情がコントロールできるかできないかは決定的に違って来るでしょう。親や周りの大人たちが、自分で自分の感情や衝動をコントロールできない中で育てられたら、感情や衝動をコントロールできる子どもが育つわけがないのです。ある意味では、人間は育てられたように育ってくるわけです。」と佐々木正美先生（児童精神科医）は言われています。

「青陵幼稚園は怒らないんですってね、それでいいんですか？」と言われることがあります。保育者が自分の感情をむき出しにして怒ること、それはしつけでもなく、教育でもないと思います。自分の感情が抑えられないだけなのではないかと思っています。

周りの大人が自分の感情をコントロールできなくて、子どもの心が傷つくことに気持ちを向けることなく怒っていたら、子どもたちだって、自分の感情を抑える必要はないと思って、感情をむき出しにしてしまうことが起こるだろうと思います。だって、子どもの周りには大人はお手本ですから、子どもは周りの大人を真似して生きていきますからね、だから、“保育者はお手本として子どもの前に立つ”青陵幼稚園の教育の中で、このことが最も難しいことだと思っています。叱らずに、子どもたちが自分の怒りを抑え、感情をコントロールすることができるように、できるだけ温かく静かな声で気持ちを切り替えられるように語りかけていきます、すると子どもたちはたとえ怒っている状態でも、保育者の言葉を聞き入れてくれるように変わっていきます。感情をコントロールする力は、我慢を強いることではなく、“あなたが傷つかないように、私たち保育者はあなたを大事にするよ”というメッセージが伝わることで育っていくと思っています。「ワ～〇△÷×・・・！！」と怒っていても、保育者が温かな落ち着いた声で語りかけるときちゃんと耳に届いていて、その提案にうなづいてくれます。幼児期の子どもたちを温かく包み込んで叱らずに教育を行う理由の一つに、このことがあります。

ところで、叱られることよりさらに子どもにとって切ないのが、関心を持ってもらえない状態です。これはあってはならないことです！！関心を持ってもらえないくらいなら、わざといけないことをして叱られる方がまだましなのです。兎にも角にも叱られている時は関心を持ってもらっているということだからですね。こんなに悲しい方法を子どもに取らせてはなりませんね。

「あなたのことをいつも見ている」と言葉でも非言語的コミュニケーションでも精一杯心を込めて伝えていきたいと思っています。

7月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	日	/	/		
2	月	○	2:00		
3	火	○	2:00		
4	水	○	2:00		
5	木	○	2:00	白ばら青ばら各1組は	マリンピアへいきます。
6	金	○	2:00	白ばら青ばら各2組は	マリンピアへいきます。
7	土	/	/	第2土曜日振替休日	
8	日	/	/		
9	月	○	2:00		
10	火	○	2:00		
11	水	×	11:30	誕生会。7月生まれさんの保護者の方、ご一緒に	お祝いしましょう。
12	木	○	2:00		
13	金	○	2:00		
14	土	/	/	子育て講座を行います。	
15	日	/	/		
16	月	/	/	海の日	
17	火	○	2:00		
18	水	×	11:30	誕生会、8月生まれさんの保護者の方、ご一緒に	お祝いしましょう。
19	木	○	2:00		
20	金	○	2:00		
21	土	×	11:30	自由登園日です。	
22	日	/	/		
23	月	○	2:00	給食は今日で終わりです。	
24	火	×	11:30	第1学期終業式です。	
25	水	/	/	青ばらさんは、夏のお楽しみ会があります。赤・白ばらさんはお休みです。	
26	木	/	/	夏休みです、星の子は行います。	
27	金	/	/	〃	
28	土	/	/	卒園児さんの同窓会があります。	
29	日	/	/		
30	月	/	/	星の子は行います。	
31	火	/	/	〃	